

2.
1(4)

在中國の部

0239

RA'-0100

0163

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

事務費五〇〇〇圓計三十七名六箇月分

中補給費進給給津俸三〇六圓計六十七名六箇月分

事務費三〇〇〇圓計三三六七六六圓

右ニ才敷員六九月乃至二月分俸給内地地方特ニ取計ハレ度

0241

略號普通電報

發	〇
着	〇
受	〇
點	〇

宛 局 長

支復總電第二六四號

支那派遣軍九州連絡所長

(福岡)

一 第二回送還俘虜長谷川隊(反戰同盟加入者)一二五名六月十六日博多上陸齊整なる復員式の内地歸還長谷川及鈴木(變名鯉元)は上京鹿地と連絡する由にて其の他夫々歸郷せり復員迄特異の必要ある事項なし

ニ 關係方面には通報済

通電先 局長、榮、上海乘船地

(終)

配布先 次官、管局長、管在外、大陸、相談所、文、電、次長、絡管部長、絡秘、絡管總、邦、内

電信寫

外務省

0242

A'1.0.0.1-2-2

略號 至急電報

昭二二二六
二〇一〇〇
二二二五
二二〇〇
一四〇〇
點

宛次官

支那派遣軍總參謀長(南京)

總參電第一四號

武装解除ニ關スル狀況

一、國共妥協ニ關スル政治協商會議ノ進展ニ伴ヒ一月十日突如トシテ中國陸軍總司令部ヨリ在華武装日本軍ハ十四日迄ニ中國正規軍ニ依リ武装解除ヲ受ケルニキ要求ニ接シ當時尙武器ヲ保有シ鐵道及要地ノ警備ヲ擔當セシメラレアリシ第四十六師團(一語不明)山西省)第四十三軍(山東省)獨立歩兵第二旅團(石家莊)獨立混成第一旅團(定縣)獨立混成第九旅團(滄縣)騎兵第四旅團(歸德)第六十五師團ノ一部(海州)獨立混成第九十旅團(秦縣)等合計約十四萬ニシテ終戰以降ニ於ケル戰死者

外務省

行方不明ハ九千餘名ニ及ヒアリ

二、現地中國軍ニ對シ命令ノ不徹底及延安軍ノ妨害等ニ依リ各地共十
四日迄ニハ武装解除ヲ終了シ得サリシノミナラス十五日以降ニ於
ケル武装解除ノ實施ニ關シテ國共双方意見ヲ異ニシアル爲山東、
山西等ノ兵團ハ板挾ミトナリ苦境ニ陥リシモノ尠カラズ
三、第十一獨立警備隊(大汶口)獨立歩兵第一旅團(張店)、濟南ニ
集結ノ上武装解除ヲ受クヘク命セラレタルモ小部隊毎ニ種メテ優
秀ナル延安軍ノ包圍下ニ陥リ武装解除ヲ強要サルルニ至リ狀況頗
ル窮迫セシヲ以テ中國總司令部トモ屢々折衝セシカ中國側ハ飽迄
絶對共產軍ニ武器ヲ讓渡スルコトナク濟南ニ集結スヘク要求セシ
ヲ以テ事態ノ推移ヲ憂慮シアリシカ右兩兵團ハ甚多ノ困難ヲ排
シ辛クシテ延安軍ノ重圍ヲ突破シ二十九日午後濟南ニ集結ヲ得タ
リ

徐州、海州中間ニアリシ第六十五師團ノ二中隊ハ前項ト同様ノ狀

外務省

0244

0243

RA'-0100

0155

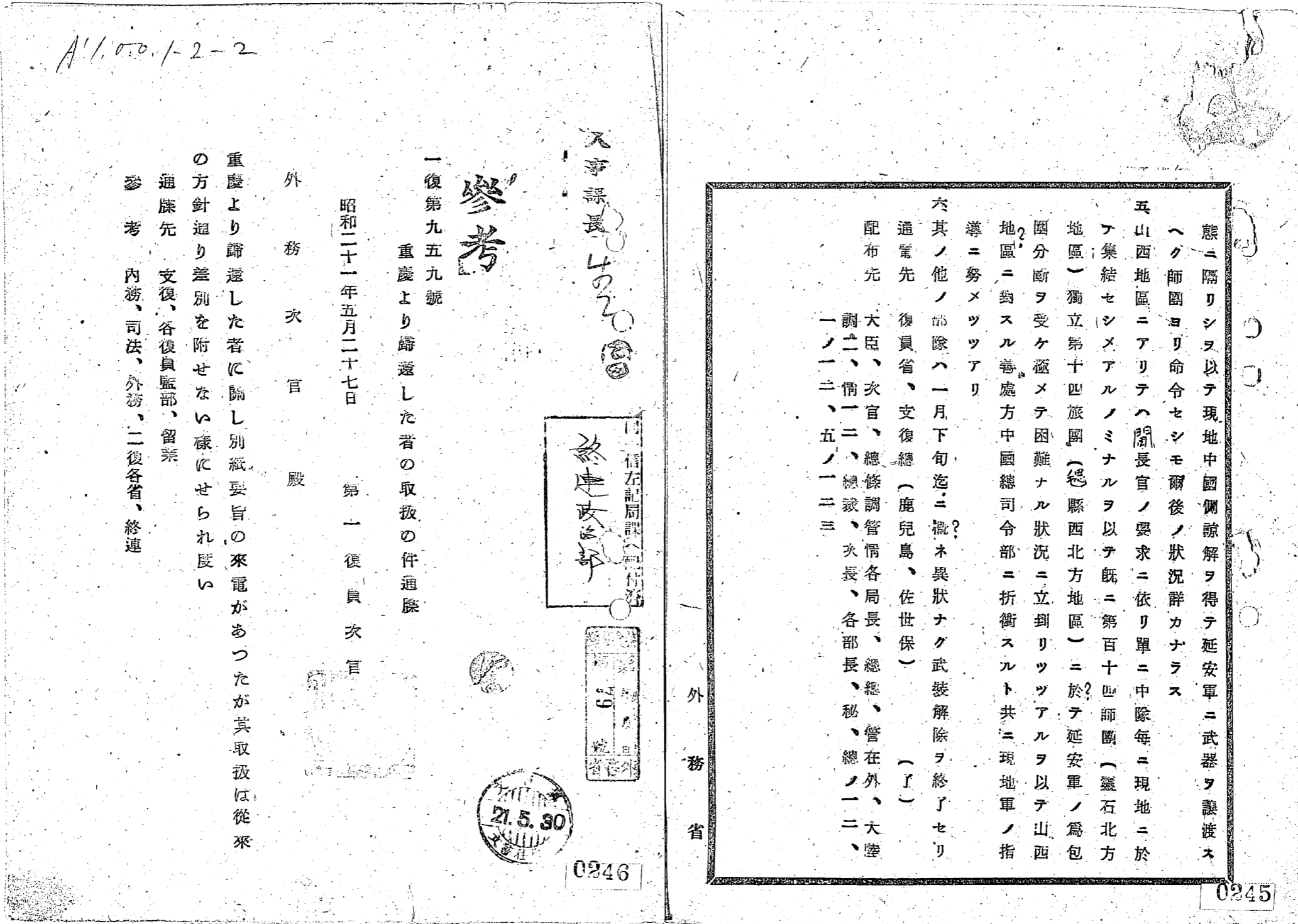
外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan



A/1.0.0.1-2-2

入事課長

参考

一復第九五九號

重慶より歸還した者の取扱の件通牒

昭和二十一年五月二十七日

第一復員次官

外務次官 殿

重慶より歸還した者に關し別紙要旨の來電があつたが其取扱は從來の方針通り差別を附せない様にせられ度

通牒先 支復、各復員監部、留業
参考 内務、司法、外務、二復各省、終連

態ニ隔リシヲ以テ現地中國側諒解ヲ得テ延安軍ニ武器ヲ讓渡ス
 ヘク師團ヨリ命令セシモ爾後ノ狀況詳カナラス
 五山西地區ニアリテハ閻長官ノ要求ニ依リ單ニ中隊毎ニ現地ニ於
 テ集結セシメアルノミナルヲ以テ既ニ第百十四師團（靈石北方
 地區）獨立第十四旅團（總縣西北方地區）ニ於テ延安軍ノ爲包
 圍分斷ヲ受ケ極メテ困難ナル狀況ニ立到リツツアルヲ以テ山西
 地區ニ對スル善處方中國總司令部ニ折衝スルト共ニ現地軍ノ指
 導ニ努メツツアリ
 六其ノ他ノ部隊ハ一月下旬迄ニ概ニ異狀ナク武装解除ヲ終了セリ
 通牒先 復員省、支復總（鹿兒島、佐世保） （了）
 配布先 大臣、次官、總條調管情各局長、總總、管在外、大鑒
 調二、情一、二、總、次長、各部長、秘、總ノ一二、
 一ノ一二、五ノ一二三

信託局課

64

21.5.30

0246

0245

外務省

別紙

宛 次 官

支那派遣軍總參謀長

總參電第五六九號（五月二十四日）

終戦前重慶側ニ俘虜トナリシ者ノ内九一二名ノ返還ヲ受ケタリ
内譯ハ陸軍七七五、海軍三一、常人九六〇リ
右俘虜ニ就テ調査ノ結果ハ以下述ブル所ノ如シ
俘虜ノ内ニハ、状況眞ニ止ムヲ待ズテ虜トナリ收容間ニ於テモ其
ノ態度見上ゲタル者モアルモ之ニ反シ收容間日本敗戦ノ工作ニ從
事又現ニ非國家的國体ニ加入シ歸國後日本復興ノ妨害ヲ企圖シア
ルモノ少カラズ

一、反戦同盟加入者（長谷川除一三〇名）

反戦同盟ハ中國共產黨ヘノ加入者ノ指導アリシ日本解放聯盟ト
呼應シ重慶ヘノ滲入者ノ指導ノ下ニ巴中收容所内ニ結成シ戦爭

間日本敗戦ノ爲直接工作（第一線ニ於ケル戦闘、宣傳、諜報等）
ニ從事シタルモノナリ

歸國後ハ共產主義ニ基ク革命ヲ企圖シアリテ日本共產黨ニ合流
スルモノト判斷セラレ主要ナル幹部左ノ如シ

長谷川敏三、渡部富美男（偽名林快佑）、橋本雅雄、鯉元明（
偽名）

三、日本民主革命同志會（四四七名）

本會ハ日本戦力弱化ノ爲ノ工作ニ從事シシムル目的ヲ以テ重慶
集中營内ニ於テ組織セラレ天皇打倒、三民主義ニ依ル日本ノ民
主革命ヲ標榜シアリ、戦争間一部ノ者ハ敗戦ノ爲ノ直接工作ニ
從事セルモ大部ハ情報、宣傳、資料ノ提供ヲ實施セリ。今次日
本側ヘノ返還ニ方リ内部分裂ヲ來シ漢口ニ於テ四四七名中一六
四名（黒木清行一派「ビルマ」作戦俘虜）ノ脱退者ヲ生ジタリ
幹部中主要者 左ノ如シ

0247

0248

大串勝利・駒田信二・吉川清・水犯繁・村山寅次郎・澤田政二郎・若永京吉・北川信孝・由内幸吉・光井政一・服部仁保・横山毅・田中信一・宮崎吉松・島正一（本名藤島）

目下ノ幹部以外ノ者ハ收容間ノ苦痛ヲ免レントセシ者功利的共產主義者等多ク又脱退者中ニハ同志會ノ内部ヨリノ切崩ヲ企圖シ方便的ニ歸國セシ無木清行（「ピルマ」作戦俘虜）等アリ

三山田少佐一黨（山田除九八名）
山田信治少佐等ハ日本革命同志會ト同一收容所（重慶集中營）ニ收容セラレ有ユル迫害ト謝意トニ反抗シ、日本人トシテノ氣節ヲ保持シ來レル者ニシテ中國共産黨人モ終戦後寧ロ敬服シアリ

收容間ハ管理側ト共謀セル民主同志會幹部連中ヨリ緊迫搾取ヲ受ケ反戦同盟トハ收容所ヲ別ニス、特ニ山田少佐ハ俘虜生活七年此ノ間迫害ニ抗シテ節ヲ屈セズ收容所ニ於ケル精神的支柱トナリ長敬セシムルニ至リタリ

四反戦同盟反戦派（鷹取隊二三七名）

五十嵐准尉、鷹取准尉等ノ一黨ハ反戦同盟ト同一收容所（巴縣收容所）ニ收容セラレ有ユル迫害謝意ヲ受ケタルモ山田少佐等ノ健闘ヲ聞知シ之ト同聲頌トシテ反戦同盟ニ反響シ來レリ南京到着時ノ服装ヲ見ルモ反戦同盟加入者ニ比シ著シク貧ラシキ裕好ナリキ

五「ピルマ」作戦ニ於ケル捕虜（五一一名、但シ第二項民主革命同志會四四七名ノ内數トス）

「ピルマ」作戦間雲雨ニ於テ捕虜トナリタル者ハ部隊玉碎シ眞ニ刀折レ矢盡キ捕虜トナリタル者ニシテ全員悉ク負傷者ナリ

約

電信寫

略號

普通電報

宛 局長

支復電第二八一號

支那派遣軍九州連絡所長 (福岡)

第四回送還俘虜山田隊百十八名 (終始節を曲げざりし者) 六月廿一日博多に上陸殘務整理者三名を除き歸郷せり

通電先 次官、支總、上海
配布先 次官、管理局長、管在外、大陸、相談所、文、電、次長、絡管部長、絡秘、絡管總、邦、内

昭

本 二 四
一 一 四 六
七 五 四 四
〇 二 三 〇
〇 〇 〇 〇
點 受 著 發
3

0249

外務省

0250

電信寫

生 1.5
如 1649
10055
1331
陸軍省 陸軍部
海軍省 海軍部
外務省 外務部
陸軍省 陸軍部
海軍省 海軍部
外務省 外務部
陸軍省 陸軍部
海軍省 海軍部
外務省 外務部

支復電第二八一號
支那派遣軍九州連絡所長 (福岡)
第四回送還俘虜山田隊百十八名 (終始節を曲げざりし者) 六月廿一日博多に上陸殘務整理者三名を除き歸郷せり
通電先 次官、支總、上海
配布先 次官、管理局長、管在外、大陸、相談所、文、電、次長、絡管部長、絡秘、絡管總、邦、内
陸軍省 陸軍部
海軍省 海軍部
外務省 外務部
陸軍省 陸軍部
海軍省 海軍部
外務省 外務部

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

RA'-0100

0170

4
略

略

至急電報

略二〇一、一、一四
一三一、二、三〇發
一三一、五、一〇著
一七二、〇〇受
一四〇、二、三〇號

次 官

甲集國參謀長(北六)

甲万參三電第一六三三號

一、東京ヨリノ通報ニ依レハ歸還輸送ノ為近夕辰日丸費地入港決定ノ所向船ニハ歸國華人勞工乗船シ居ルモノト豫想セラルルニ付之カ受入ニ關シ後記天津及塘沽ニ於ケル指置ノ狀況御參考ノ上貴地中國側及米國側ニ連絡至急準備ヲ進メラレ度(歸還勞工受入レニ就テハ諸準備及未有物資調達ノ關係上及交通ノ狀況ヨリ青島及塘沽ノ二箇所トスルコトハ非常ニ困難ヲ伴フヲ以テ塘沽一本トセラレ度東京ニ申請シアリタルモ貴地向北船開始セラルルトセハ止ムラ得サルニ付貴地中國側機關ニ依頼シ之カ受入ニ萬全ヲ期セラレ度

電信寫

0252

高方トシテモ第一一戰區邊官部ト(二語不明)講スルコトト致度
二内地ヨリノ歸還勞工ハ總數約三萬人ニシテ既ニ塘沽經由ニテ歸還セルモノハ第一船(江ノ島丸)一六〇〇人、第二船(辰日丸)一五〇〇人、第三船(江ノ島丸)二三〇〇人ナルカ此等歸還勞工ノ受入ハ中國側機關(天津)於テハ市政府ノ外ニ南京ヨリ字付情報關係トシテ裝大佐駐屯)カ直接ニ當(一語不明)トナリ日本側ハ學務費(給食費、旅費其ノ他一切ノ雜費ヲ含ム)勞工持還リ金交換資金(日本圓元金及元金ノ五〇倍トス各人持還リ金交換持參)及慰勞品(勞工服、煙草、燻寸、急救藥、食糧等)ヲ調達ノ上中國側ニ交付シ爾後ノ措置ハ中國側之ヲ實施ス
中國側ニ於テハ塘沽ニ於テ下船シタル勞工ハ一應之ヲ天津郊外北洋大學ニ收容シ其所ニテ持歸リ金交換物品供與身元調査等ヲ行ヒタル上適宜解散歸郷セシメアリ
三、慰勞物資ノ調達ニ關シテハ天津ニ於テ三萬人分ヲ中國側ニ交付シ

外務省

0251

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

RA'-0100

0171

電信寫

45

緊急電報

30

船二〇一

一〇二

一〇三

一〇四

一〇五

一〇六

一〇七

一〇八

一〇九

一一〇

14

中集團參謀長(北京)

中万參二電第四二六號

一、北占領、密雲(密雲ノレ)以北地區、五所地區ニ精集シテ了リタル
 陸軍(既報)ハ十月二十六日頃ヨリ兵ノ行動活潑ニ「一語不明」十
 一月三日兵)刀札五〇〇ヲ以テ我カ在石匣小管ニ到シ「一語不明」改
 率シ來リ我カ方之ヲ逐シテ、海ノ西一區「三語不明」率退セル
 一、向)再度來襲ノ事アリ
 一、指書左ノ如シ
 一、石匣地區 馬死一匹(密雲二)、貨物三七(海二)
 一、小管 貨物四

アルモ此ノ内一部ヲ青島ニ輸送スルコトハ目下ノ狀況ニテハ悉ク
 夕困難ト思考セラルルヲ以テ實地ニ於テ中國側ト協議ノ上調達可
 能ノ限度ニ於テ準備スルノ外ナカルヘシ資金ノ内事務費ニ就テモ
 三萬人分トシテ約二億七千萬圓ヲ中國側ニ交付シアルモ之ヲ分割
 スルコト困難ト思考セラルルヲ以テ別途適當額ヲ貴地ニ於テ交付
 スルノ外ナカルヘシ持還リ金交済資金ニ就テハ各船毎ニ五三(一
 語不明)ヲ中國側ニ交付スルコトナリ居ルモ以上ノ所妥資金調
 達ヲ如何ニスルヤハ大ナリ問題ニシテ當方ニ於テモ財政部亦孤員
 ト協議中ナルカ之ヲ解決ハ相當長延ノ見込ナルニ就テハ貴地ニ於
 テ此等資金ノ現地調達及其ノ他受入レ準備不適ノ場合ハ重大事態
 ラ惹起スヘキヲ以テ辰日丸ハ塘沽場ニ變更スルヲ要スルト思考セ
 ラルルヲ以テ至急貴方ニ於テモ中央ニ對シ措置アリ度
 東京ハ外務大臣へ南京ハ城內公使へ傳へラレ度
 通電先 青島總領事 參考 次官・支那總軍(一語不明)(了)

外務省

0254

0253

RA'-0100

0172

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

電信寫

一 外務省ニ在ルニ當テ武官自室保管現金及命書一切ヲ聯合國代表者ニ引渡シ武官府室ヲ閉鎖シ度
 二 小官等(井上、玉井、榎崎、中野)ハ兩國公使ト行動ヲ共ニ致シ度石側分ノ御指令ヲ待度 井上

一一 一八〇〇 詳始二〇〇〇
 一二 一八〇〇 詳了二〇〇三 電〇一六六八

發 在 輔 衛 才 武 官

特 政 三 令 外 務

外 務 省

0256

一 一 戰 區 長 官 加 吉 月 本 月 四 日 駐 石 本 縣 北 側 之 東 進 平 漢 止 延 北 方 進 出 シ ア ル ヲ 以 テ 同 縣 北 平 石 家 莊 間 鐵 道 警 備 ヲ 強 化 セ ラ レ 度 旨 要 水 ア リ タ ル 事 自 下 直 ナ ン 縣 警 備 情 ナ リ
 二 平 漢 線 北 上 中 ナ リ シ 第 一 戰 區 二 人 面 面 第 三 〇 單 同 第 四 〇 單 新 編 第 八 單 十 一 月 初 メ 磁 縣 附 近 二 於 テ 駐 軍 二 依 リ 租 界 ノ 打 擊 ヲ 蒙 リ タ ル 事 ノ 如 シ
 三 膠 濟 線 八 日 頃 ヨ リ 空 線 ノ 運 行 可 能 ト ナ ル 見 込
 四 平 津 附 市 日 下 概 不 平 靜 二 抵 移 シ ア リ 殊 二 大 津 ハ 米 米 二 依 ル 泊 女 帳 不 長 財 二 保 持 セ ラ レ ア リ テ 州 人 ノ 報 告 加 ト ナ ツ 北 平 ハ 警 備 軍 機 師 等 ヲ 許 稱 ス ル 掠 奪 事 件 等 散 發 シ ア ル 事 次 ナ ル 事 ノ ナ ク 警 備 軍 局 長 之 力 以 テ 止 止 シ テ ハ 軍 官 日 ナ ル 勢 力 ヲ 研 比 ツ ア リ
 五 向 華 水 軍 ノ 膠 濟 線 八 次 派 隊 化 シ ア リ 報 告 二 於 テ ハ 日 本 同 二 何 等 ノ 警 備 生 シ ア ラ ス
 六 海 軍 允 次 官 文 機

0255

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

RA'-0100

0173

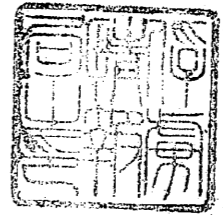
K' 3.0.0.1-2-1
A' 1.0.0.1-2-2

國際赤十字委員會中國派遣委員
 一九四六年三月二十四日 M. Jundt 博士, W. H. Pfeiffer 氏及余ハ
 上海ノ *Tuhsong* 波止場ノ集團ヲ訪問セリ
 此處ヨリ上海地域ニ於ル日本兵ガ日本ニ送還セラルソナルノデ
 アル
 我々が埠頭ニ行ツテ時ニハ、三隻ノアメリカ建造ノリバー船
 一船ガ棧橋ニ撃カレテキタ。ソノ中ニ隻ハ全ク積載ヲ終リ
 同日ノ午後日本ノ博多ニ向ソテ出航シタ。二隻ノ中ノ一隻ハ
 "Cornelius Vanderkilt" 號デ五、五〇〇名ガ乗船シ
 アリテ、他ノ一隻ニハ、四、三〇〇名ノ武装解除セラレタル兵ガ乗船
 シ、約半數宛ノ陸海軍人ガ乗船シテキタ。上海ヨリ博多

停虜情報局

10253

停虜第一〇九號
 支那戰域から日本人歸還に關する國際赤十字委員
 の報告
 昭和二十一年九月二十六日 停虜情報局
 終戰連絡中央事務局管理部 御中
 國際赤十字委員會駐日代表部より別紙「支那戰域からの日本人の歸
 還に就て」と書ふ委員會代表員の視察報告を送附して來ましたので
 其の寫を茲に御送附致します
 第一復員局總務課
 送附先 終戰連絡中央事務局管理部
 日本赤十字停虜救恤委員會



昭和二十一年九月廿六日受付

停虜情報局

10257

RA'-0100

0174

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

迄ハ百ヲ一十越エル予定ニシテキル。船六隻ヲ日本人乗組員ニ依リ
操縦セラレ、東京ノ日本商船管理中央事務局ノ旗ヲ掲ゲテ航海
シテキル

傳聞情報局

同日ノ午後 Klangwan 航空基地ノ近クニ在ル武装解除
セラレタル軍人ノ短期滞在ノ宿泊所ヲ訪問シテ
ソノ宿泊所ハ低クテ、今ニモ倒レサウナ荒廃シタ。生子板(ナモ)
テ作ラレタ丸太小屋トモ云フベキモノデ、コレカラニ三日以内ニ日本ニ
歸ル予定ノ約一〇〇名ノ日本陸軍兵ガ居住シテキタ。
彼等ハ三日前ニ北方ヨリ到着シタモノデアル。明ラカニ支那人ノ番兵ハ
居ラナカツタ。ソノ宿泊所ハ日本人ニ依ッテ経営サレテ居ル様ナ
印象ヲ得タデアル
彼等ハ北方ノマラフカラ日本ニ持チ歸ルコトヲ許サレタ衣服ヤ
私有品ハ勿論、貯蔵ノ食料品ヲ持チシテキタ
一般ニ彼等ハ一日二回ノ食ヤヲ食シテキタ。即チ朝一回ト晩一回ヲ食

0259

傳聞情報局

我々ノ訪問当時、彼等ハ海外テ標準日本陸軍用大釜ニテタ食ノ
準備ヲ再シテ居ル処デアツタ。ソノ獻立ト云フノハ野菜ヲ入レタ
味噌汁ト大麦ヲ混セタ米飯デアアル
高級將校(現在少佐)ハ次ノ如ク言ツテ居ツタ。即チ、彼ノ推定
ニ依ルハ部隊ノ体重ハ殆ンド降服当時ト同シデアリ又彼ノ部下達
ノ健康モ一般ニ満足スベキ状態ニアルト。彼ノコノ陳述ハ病院
患者ガ一名モ居ラナイト云フ事、病床ニアル者モ居ラナイト云フ事
實ニ基イテ述マタモノノ如クデアアル
彼等ハ一九四五年五月以來日本カラ郵便ヲ受領シテ居ラナイガ、
当地カラ日本宛通信ヲホセル施設ガ完成サレタ旨語サレテキルガ
今迄斯ル計画ヲ利用スル機会ヲ有シナカツタ各兵士及將校ハ五〇品
ヲ受領シ得ルコトノ出来ル受取證ヲ所持シテキル。將校ノ場合ハ更
ニ二百円ノ受取證ヲ所持シ得ルト士官兵ノ場合ハ日本ニ到着
後受領シ得ル

0260

RA'-0100

0175

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

傳聞情報局

宿泊所ハ殆ト睡眠が取レ難程之ニ合ツテヤル。屋根ニハ無数ノ漏レ口カアリ。人々ハ余儀ナク泥水ノ中テ宿泊シテヤル次第デアアル。適當ノ洗濯所モ便所モ入浴施設等モナク。又水道モ危険ナ状態ニ曝ケレテヤル。此等物質的困難ニモ拘ラズ。部隊ハ個人的ニハ驚ク程清潔ニシテ階級章ヲ附ケタ完全ナ制服ヲ所有シ嚴正ナル日本軍軍紀ヲ保持シテ居ル。此ノ短期宿泊所ニ於ケル滞在期間ハアラユル場合ニ於テニ三日ノ滞在ニ限ラレルコトヲ希望スルノミデアル。サモナケレバ、天候ノ悪イ場合ニハ重大ナル困難、特ニ病気が起ルコトハ確實ナ結果トナルカラウ。

派遣委員

14. C. August

0261

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

RA'-0100

0176